

讃州井筒屋敷

東かがわ市にある讃州井筒屋敷は、かつては香川県東部で最も栄えた名家のひとつが住んでいました。佐野家は、江戸時代（1603–1867 年）から 20 世紀前半にかけて、醤油や酒造業など複数の事業を営み、広大な土地を所有していました。住居、貯蔵室、蔵などからなる広大な敷地は、明治時代（1868–1912 年）の初期に完成し、2001 年に全面改装されました。現在は、博物館や観光案内所、土産物店など様々な施設が入っています。裏の一戸建て住居や樹齢 200 年以上の樹木が生い茂る中央の庭などのある住居建築は、訪問客に 1 世紀以上前の裕福な商人の暮らしぶりを想像させてくれます。住居に隣接する耐火性の倉庫（蔵）は、現在は店舗やレストランとして利用されています。またこの施設では、東かがわ市の伝統工芸をテーマにしたワークショップも定期的に行っており、手袋の飾り付けや、この地域で伝統的に作られているきめ細かい砂糖（和三盆）を使ったお菓子作りなどが体験できます。